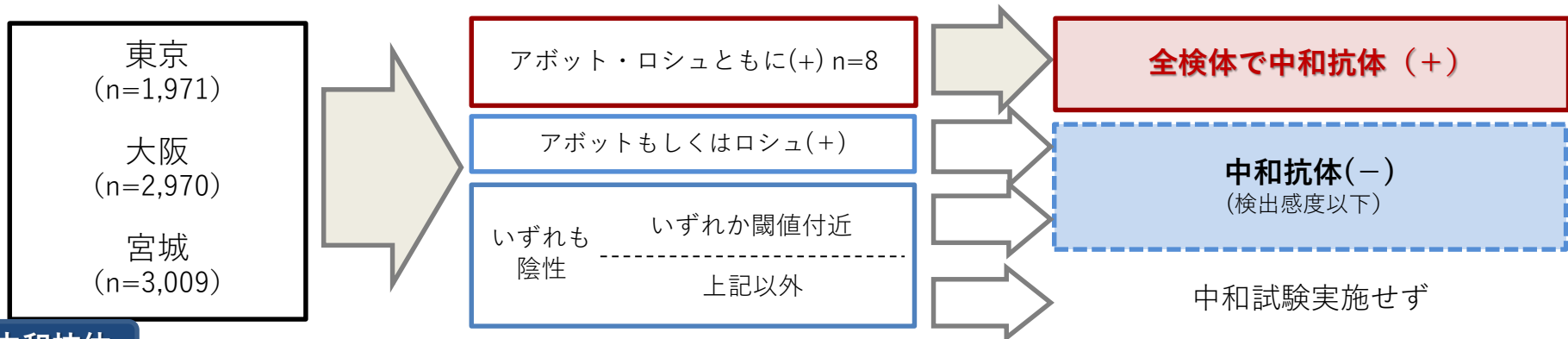


抗体保有調査における中和試験の結果について

測定方法

米国FDAからEUA（緊急使用許可）が出ている2社の検査で陽性となった8検体に対して、国立感染症研究所でウイルス感染阻害機能を持つ抗体量（＝中和抗体価）を測定した *細胞変性効果(CPE)が抑制される最大希釈倍数を抗体価とする。



中和抗体

結論：アボット・ロシュともに（＋）の検体のみで、実際にウイルス感染を阻害する機能を持つ「中和抗体」が確認された。

⇒中和活性を加味しても、各地の抗体保有率は、東京：0.10%、大阪：0.17%、宮城：0.03% と言える。

	アボット (+)			アボット (-)			計	中和活性を有する抗体保有率	累積感染者数 (感染率5/31)
	ロシュ (+)	ロシュ (-)	計	ロシュ (+)	ロシュ (-)	計			
東京都	ロシュ (+)	2 (0.10%)	4 (0.20%)	6 (0.30%)	0.10%	5,236人 (0.038%)			
	ロシュ (-)	2 (0.10%)	1,963(99.59%)	1,965(99.70%)					
	計	4 (0.20%)	1,967(99.80%)	1,971					
大阪府	ロシュ (+)	5 (0.17%)	5(0.17%)	10 (0.34%)	0.17%	1,783人 (0.02%)			
	ロシュ (-)	11(0.37%)	2949(99.29%)	2960(99.66%)					
	計	16 (0.54%)	2954(99.46%)	2,970					
宮城県	ロシュ (+)	1(0.03%)	6(0.20%)	7 (0.23%)	0.03%	88人 (0.004%)			
	ロシュ (-)	2(0.07%)	3000(99.7%)	3002(99.77%)					
	計	3 (0.10%)	3006 (99.9%)	3,009					